

キクの病害虫の発生状況（6月中下旬）

白さび病

発生ほ場割合は、やや高い状況でした（図1）。育苗床からの持ち込みによる発生と思われます。下位葉で発生は抑えられていますが、上中位葉で発生がみられる場合は防除を実施してください。多湿条件が続くと発病しやすくなるので、予防散布を心掛けてください。また、本病は、キクの品種によって発病に差があるので、発病しやすい品種では、防除を徹底してください。

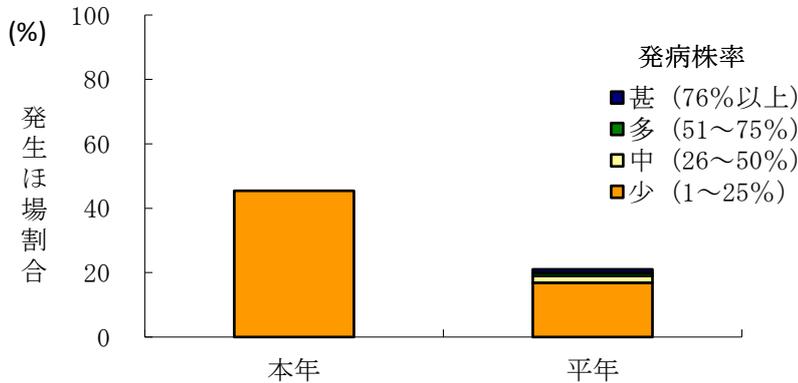


図1 白さび病の発生状況

アブラムシ類

発生ほ場割合は平年並でした（図2）。今後、有翅虫の飛来が多くなることが予想されます。気温の上昇に伴って急激に増殖することがあるので、ほ場をよく観察し、発生が見られる場合は防除を実施してください。

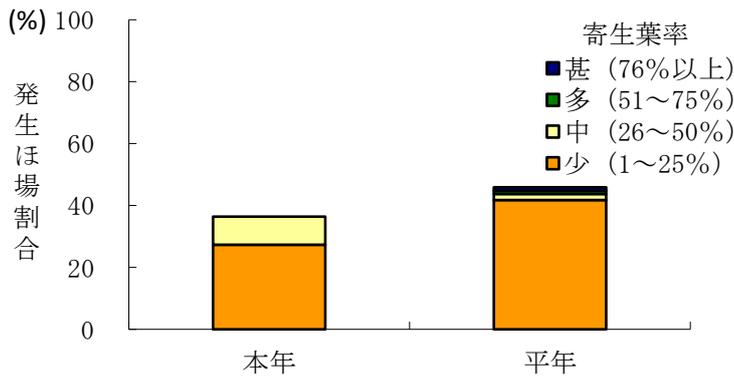


図2 アブラムシ類の発生状況

ハモグリバエ類

発生ほ場割合は、平年よりやや低い状況でした（図3）。寄生種は、ナモグリバエが主体で、夏季には発生が少なくなりますが、上位葉にも発生が見られる場合は、防除を実施してください。

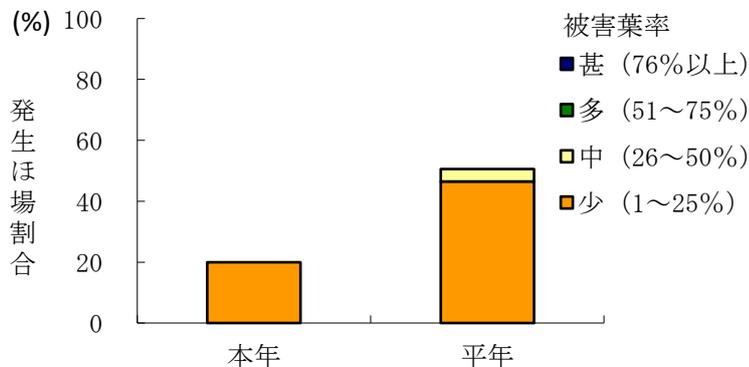


図3 ハモグリバエ類の発生状況

アザミウマ類

発生ほ場割合はやや高く、一部で発生程度の高いほ場が確認されました(図4)。ほ場周囲の雑草が発生源となることが多いので、除草を徹底してください。発生種がミカンキイロアザミウマの場合は、効果の高い薬剤が少ないので、薬剤の選択に注意してください。また、本種は、TSWV等のウイルスを媒介するので注意が必要です。

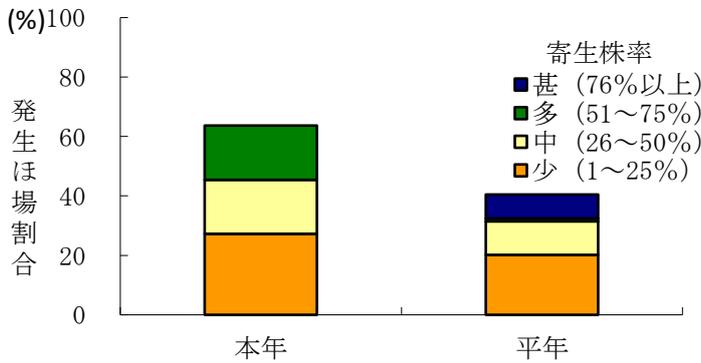


図4 アザミウマ類の発生状況

ハダニ類

発生ほ場割合は、平年並でした(図5)。天候予報(6月25日発表1か月予報)によると気温が高くなり、晴れの日が多いと予想されています。多発すると防除が難しいので、ほ場をよく確認して、低密度時から防除を徹底してください。また、薬剤によっては、感受性が低下している可能性があります(表1)。薬剤防除を行った場合には、防除の2~3日後に葉裏を観察し、効果が十分でない場合には、異なる系統の薬剤で防除を行うなど適切に対応してください。

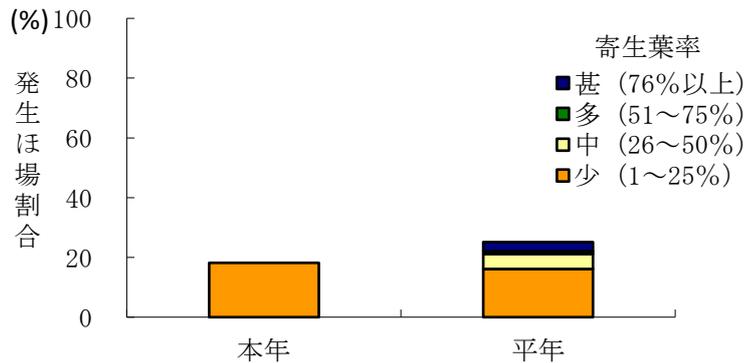


図5 ハダニ類の発生状況

表1 ナミハダニに対する殺ダニ剤の効果

供試薬剤	イチゴ	キュウリ	キュウリ	キク	イチゴ	イチゴ	イチゴ	イチゴ
	2001年 農試	2002年 農試	2003年 農試	2004年 農試	2008年 防除所	2013年 防除所	2015年 防除所	2018年 防除所
アグリメック	—	—	—	—	—	—	—	◎
アーデント水和剤	△	△	△	△	—	△	—	—
アフーム乳剤	—	—	—	—	◎	—	—	—
カネマイトフロアブル	—	◎	◎	◎	◎	◎	○*	◎
コテツフロアブル	△	△	○	△	—	△	—	△
コロマイト水和剤	◎	◎	◎	◎	◎	△	△*	○
スターマイトフロアブル	—	—	—	—	—	—	△*	—
ダニサラバフロアブル	—	—	—	—	—	○	△*	△
ダブルフェースフロアブル	—	—	—	—	—	—	—	△
ニッソラン水和剤	△*	—	△*	—	—	—	—	—
パロックフロアブル	○*	—	○*	—	—	—	△*	—
ピラニカEW	△	△	△	△	—	△	—	—
マイトコーネフロアブル	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎*	◎

注1)◎:効果高い、○:効果が劣る場合あり、△:効果が劣ることが多い、—:未検定

(◎:すべての個体群で死虫(卵)率90%以上、○:死虫(卵)率90%以上の個体群が5割以上、△死虫(卵)率90%以上の個体群が5割未満)

注2)※は、殺卵効果を検定。

オオタバコガ

巡回調査では、寄生は確認されませんでした。鱗翅目による生長点の加害がみられています。フェロモントラップ調査では、既に誘殺が確認されていますが(図6)、平年より誘殺頭数は少ない状況です。幼虫が寄生する生長点付近を中心によく観察し、発生が見られた場合には防除を実施してください。

誘殺数(頭)

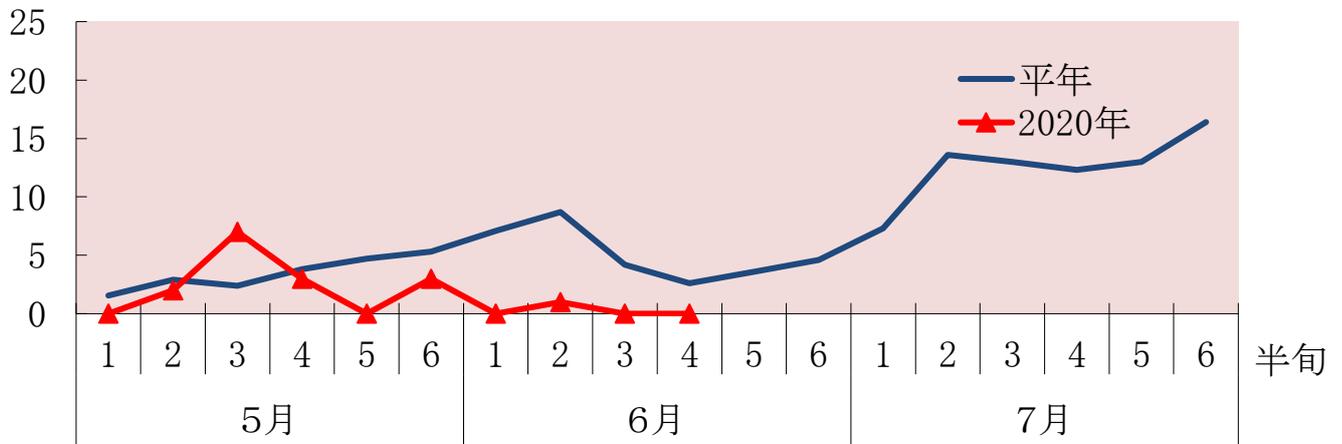


図6 フェロモントラップによるオオタバコガの誘殺状況
(伊達市保原町:キク)

● 情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709

Fax:024-958-1727

e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp

福島県では2020年度農薬危害防止運動が6月10日から9月10日まで実施されます。

農薬を使用する際は、ラベルをよく読んで正しく使用しましょう